

令和 8 年度

あんじょう 協働 リビングラボ

NEWS LETTER ③

10月4日、日曜日の午前中、市民交流センター多目的ホールで令和8年度「あんじょう協働リビングラボ」の3回目を開催しました。参加者は、市民と事務局スタッフを含めて19人でした。

実践編の初回となったこの日、前半では、過去に「あんじょう協働リビングラボ」に参加し、現在も活動が続けている先輩2組から活動紹介を聞いたあと、質疑応答をしました。

また後半では、車座になって、自分が「やってみたいこと」について、プラカードに書いて紹介し合ったあと、仲間を募ってチームを結成。チームごとに、取り組んでみたいトライアル活動について意見交換し、最後に話し合いの経過の発表・共有をしました。

DAY3 実践トライアル①「チームをつくろう！」

1. ようこそ先輩！事例に学ぼう。

事例1 本つなさん

自分たちは「続ける」ことを大切にして活動してきました。

2023年のリビングラボで月1回の読書会をスタート。新メンバーの参加をきっかけに、2025年9月から碧南と安城で交互に開催しています。

前半に自分の推し本を紹介し合う読書会、後半で月替わりのイベントを組み合わせ、これまでAI活用セミナーや3歳からできる株投資セミナー、カフェのマスター直伝のハンドドリッブセミナーなどもしました。

私たちのルールは楽しく続けること。月1回の定期開催で、打ち合わせもイベントの日に行っています。自分は2歳と4歳の子どもを連れて参加。子どもを連れて来られることで参加しやすくなっています。

今後の課題は、人と本のつながりを広げ続けること、新しい

人とつながり続けることです。私達は気軽な気持ちでスタートしましたが、最初の一步を踏み出すと、不思議なことに支えてくれる人やつながりが出てきます。

インスタで情報を発信し、noteでは紹介された本や、その会にどのような対話があったかも発信しています。みなさんの参加をお待ちしています！



事例2 つながりラボ anjoさん

私達は、親子が気軽に話せ、一緒に遊べる、安心してすごせる居場所「みんなで作ろう やさしい居場所」を月1回、市内の公共施設で開催。昨年度のリビングラボに参加したメンバーでチームを立ち上げ、現在のメンバーは5人。今年度団体登録をしました。参加者は、繰り返し参加される人や、友人を連れて来てくれる人もいて、少しずつ広がっています。

私達は、年齢・職種・経歴が異なるメンバーで意見を出し合い、自分達がやりやすいやり方を見つけました。ワークショップでフラットに話し合えたことが大きかったと感じています。また昨年12月の公園でのイベントと、1月の居場所づくりの、2回の社会実験をしたことが、活動の継続につながりました。

打ち合わせはイベント当日にしています。また毎回全員が参加するのではなく、参加できる人で無理なく活動。それぞれが得意なことを活かして「今日はこれをやる」と引き受けてくれ、自分たちにとっても居場所、やさしい場所になっています。

1人でできることは限られるけど、一緒にやると力が倍増。うまくいくこともいかないことも全てが学びと経験になる。考えるだけではなく、一歩踏み出してみることが大事だと思います！



Q&A

Q:活動を継続するコツ、モチベーションは？

本つな: 開催日を決めておけば、自分が参加できなくても他のメンバーがいる。また、自分も参加者として楽しんでいることが、継続につながっていると思います。

つながりラボ: みんなの目的が一致していることと、自分たち自身も楽しんでいることが大きい。「次はこんなことをやりたい！」と年間計画を立てて、前に進めています。

Q:企画は自分発信か、ニーズ発信か？

つながりラボ: 両方だと思います。自分達の経験から、つながりが必要なのではないかという仮説があり、実際にやりながら、必要とされているという感触を得ています。

本つな:参加してもらいたければニーズに寄せてもよいし、自分たちがワクワクしないのであれば、自分たちのやりたいことに寄せてもよい。そのグラデーションの中で活動しています。

2. 個人ワーク「つくろう！プラカード」～プラカード・DE・1分CM

自分が「やってみたいこと」「気になること」とその理由について考えたあと、1人ずつ紹介しました。

- 子どもたちと自然を楽しむ
明るく元気な子どもたちに育ってほしい
- 子どもを中心とした地区防災
地区防災組織はあまりにも男性社会。
- 子ども自転車教室
親子で達成感を得ることで、親子の絆を育む
- 子供食堂
桜井福祉センターで机を並べ食事した経験から
- 多様な人達が集まり交流
人と人がつながり、誰も孤立しない社会へ
- 異文化交流できる場
もっと多様性が大切にされるとみんな Happy
- 哲学対話
傾聴トレーニングにもなる対話の場をつくりたい
- ホッとひと息つける居場所づくり
日々の仕事や役割から離れリラックスした時間を
- 体を入口にして人とつながる
高齢者もババママも、いつまでも安心して生活できるように
- パソコン、スマホへの向き合い方を考える場
自分で問題に向き合うことが大事！
- 商店街でぬいぐるみを回収する店舗
空き店舗活用、商店街活性化、ゴミの減量
- 居心地よく歩きたくなるまちなか
歩きたくなるまちなかを安城につくりたい
- 情報共有の場づくり オンライン体験
知らないから利用していない、を減らす
- 大人の仲間づくり
仕事を辞めた後の居場所づくり
- 音楽を通した市民交流
音楽には国境を超える力がある



3. グループワーク「やれたらいいね！こんなこと」

仲間を募ってチームをつくり、チームで取り組みたい「小さな1歩」について意見交換しました。

A グループ（チーム名：わっか）

【PROJECT名】：「たのしい いばしょ」

【目的】：気軽に集える楽しい居場所づくり

【対象】：年齢、国籍 問わず、テーマに興味がある方

【内容】：多様な人たちの居場所づくり

【方法】：まず、それぞれが行く or 調べてみる



B グループ（チーム名：チャレンジャーズ）

【PROJECT名】：「なかまがつながる時間づくり」

【目的】：パソコンやスマホへの依存から脱却して、人と関わりたい。

【対象】：仲間を探している人たち



C グループ（チーム名：哲学対話からスタート）

【PROJECT名】：「身の回りの？を具現化する」

【目的】：自分の当たり前を見つめ、思い込みから自由になる

【対象】：子どもも大人も

【内容】：参加者の？を解決する

【方法】：哲学対話を通して、社会を知る（自分を見つめ直す）



ひとことアンケートより

「社会課題」の解決というと堅苦しいが、「ゆる〜く」やって続けることでいろいろな展開があるんだな〜と思いました／いろんな方の意見を聞いて、確かに！！と思ったり、耳が痛かったりもしました。具体的なビジョンを持っている方も多くておどろきました／それぞれの強い思いを1つにまとめるのは難しかった ほか

【発行・問合せ先】

安城市役所 市民協働課

TEL 0566-71-2218

✉ kyodo@city.anjo.lg.jp